

# BCAO News

特定非営利活動法人 事業継続推進機構

## ・BCAOアワード2021特集号

P.1	BCAOアワード2021 各賞受賞者一覧
P.2	事業継続部門「優秀実践賞、人づくり・訓練賞」： ナブテスコ株式会社 住環境カンパニー 様
P.5	事業継続部門「優秀実践賞」： カイン工業株式会社 様
P.7	事業継続部門「奨励賞」：広島修道大学 様
P.10	BCAOアワード2022 募集のお知らせ

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)は、日本の事業継続(BC)の普及に資するため、その普及、実践等に貢献した個人・団体を表彰する「BCAOアワード2021」の受賞者を、この度、下記のとおり決定いたしました。本アワードは2006年度に創設され、今回が16回目の表彰となります。

9月の月例オープン勉強会(WEB開催)において、多くの方に参考にしていただけるよう、受賞者の方にそれぞれの内容についてご発表頂きました。本号では9月の月例会でご発表頂いた3組のお取り組み内容を掲載いたします。

### BCAOアワード2021 各賞受賞者一覧

#### 【事業継続部門】

賞	受賞者	タイトル
大賞	AIG 損害保険株式会社	AIG 損保における BCM 強化・企業防災・中小企業強靱化取り組み
特別賞 優秀実践賞	清水建設株式会社	震災対応初動支援システム“BCP-Map”の開発と事業継続への活用
特別賞	一般社団法人 大阪ビルメンテナンス協会	「避難所衛生維持」を継続するための大阪ビルメンテナンス協会の取り組み
特別賞	ユナイテッド・インシュアランス株式会社	事業継続力強化計画策定支援から BCP 策定へ
優秀実践賞 人づくり・訓練賞	株式会社エンタープライズ山要/株式会社寝屋川興業	BCP が守る社員と市民の笑顔、繋がる未来の笑顔
優秀実践賞 人づくり・訓練賞	ナブテスコ株式会社 住環境カンパニー	実効性を重視した事業継続力強化の取り組み
優秀実践賞 企業防災賞	岩谷産業株式会社	マルキガスグループの地域防災と BCP の取組
優秀実践賞	株式会社 NPK	社内 BC 体制強化のための「BC リーダー」について
優秀実践賞	カイン工業株式会社	令和元年台風 19 号被災体験で学んだこと、新たな BCP の取り組み
優秀実践賞	株式会社ケイ・エム・ケイ	KMK の現在地と今後の歩み ～事業継続の重要性～
優秀実践賞	株式会社UACJ	UACJ グループ初の BCM 訓練の実施～オンラインによる複数拠点訓練

賞	受賞者	タイトル
奨励賞	広島修道大学	広島修道大学 BCP 策定
奨励賞	有限会社ほり江	顧客ターゲットをずらすことによる新規顧客の獲得 ～需要蒸発を乗り越えるために目指した事業継続戦略～

(同一賞につきましては、組織名の五十音順にて記載しています)

### 【防災部門・事業継続部門】

賞	受賞者	タイトル
企業防災特別賞	株式会社チャレンジ	緊急地震速報並びに実践的避難訓練の普及による地震被害の軽減

### 【事業継続部門】

優秀実践賞、人づくり・訓練賞：

ナブテスコ株式会社 住環境カンパニー 様  
「実効性を重視した事業継続力強化の取り組み」



ご発表者：木村 康弘 様／ナブテスコ株式会社  
ものづくり革新推進室 調達統括部（BCP 総括事務局）



### 【ナブテスコ全体の BCP】

はじめに、ナブテスコ全体の BCP 活動についてお話しします。ナブテスコは多様な事業を擁する中堅クラスの企業の集合体です。グループ全体の売り上げは約 3000 億円、モーションコントロール技術を駆使し、生活空間に安全、安心、快適な暮らしに欠かせない製品やサービスを提供することを企業理念としています。

製造業のナブテスコは、基幹業務として、自社の生産活動の共に、調達活動を重視しています。そのため、事業継続を推進する BCP の総括事務局は、本社部門の調達統括部に置かれています。

実際に BCP を担い実行するのは、ナブテスコ本体の 6 つの会社と 3 つのグループ企業の傘下にある 9 つの工場です。BCP は事業単位のため工場の数だけ存在します。BCP の実効性を上げるために、国土強靱化基本法に基づく国の認定制度、いわゆる「レジリエンス認証」に挑戦、2019 年に全 9 工場の認証取得を完了しました。昨年 1 回目の更新を完了、来年は 2 回目の更新審査を控えています。

また、調達リスクの低減対策が事業継続上の重点課題です。サプライチェーンの強靱化をテーマに、生産と調達をセットにした取り組みで、サプライヤーの 99%に当たる中小企業の BCP 支援に注

力しています。製品価格の6~7割は外部からの調達品で占めており、調達のインパクトは大きく、サプライヤーからの経営資源の安定確保は生産活動の大前提です。

サプライヤーのBCP支援にあたって、3つのステップを踏まえて実践しています。

まず、多くの参加者を動員する目的もあり、地域の自治体と連携でBCPの啓発セミナーを開催、参加企業にはBCPの必要性を理解してもらいました。

次に、BCP策定講座やBCP訓練講座といった実践セミナーを開催、やり方を学んでもらいました。

そして、1社1社に対する個別支援も展開中です。BCPの活動成果を形にしてもらうため、持続的な活動を促し自立してもらう目的で、「レジリエンス認証」取得のサポートを実施しています。



## 【住環境カンパニー甲南工場のBCP活動】

今回アワードを受賞した住環境カンパニー甲南工場のBCP活動について紹介します。

住環境カンパニーは6カンパニーの1つで、自動ドア、プラットフォームドア、福祉という三つの事業を担っています。生産拠点である甲南工場は、大阪湾の人工島に立地し、津波や液状化が懸念されるリスクを抱えた工場です。

人命の安全を確保すること、有事における最優先の製品供給を速やかに再開すること、地域社会との連携を図って復旧・復興に努めること、の3つを基本方針にしたBCPです。



BCPとして、まずは、工場被害の影響を分析しました。甲南工場は海拔1メートルという立地であるため危険度が著しく、他工場と比べて危機意識のレベルは高いと言えます。工場が抱える組織の脆弱性を把握、あらゆるリスクを整理しました。

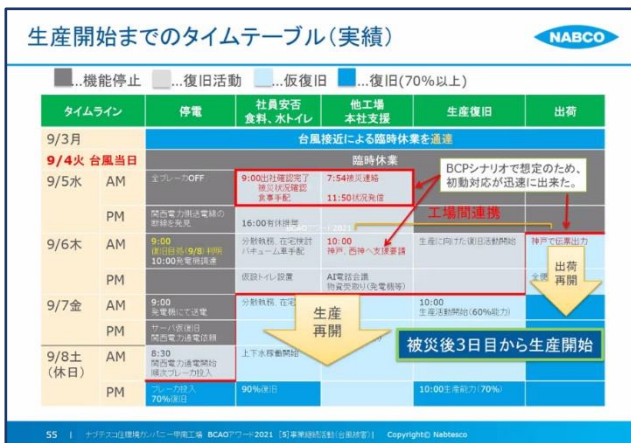
次に、非常時の即応態勢を整える上で、初動の基本行動と役割を明確にしました。災害発生時から生産再開の目標を1週間とし、誰が何をやるかという役割の固定化ではなく、被災現場にいる誰もが迅速に行動できるように、やるべきことを可視化して、行動のチェックリストにしました。年1回の訓練や定期的な会議で見直しをしています。

さらに、“基本の徹底”という会社方針に則り、初動訓練は繰り返し実施しています。訓練で明らかになった数々の問題と、あるべき姿とのギャップを明確にし、どうやって縮めるかという課題を設定、各部門でアクションプランにして取り組み、改善実績を重ねてきています。

特に、甲南工場が壊滅的な被害を受け、復旧が困難となった最悪の事態において、代替生産によるプロセスが定まっていない、実効性に欠くという問題があり、組織で共有し重点課題として継続して取り組んでいます。

また、サプライヤーの被災対策として、災害時に自力で対応できる能力を各社に高めてもらうため、重要サプライヤーを選定し、順次、サプライヤー1社1社に対するBCP支援にも注力しています。





## 【台風被害】

2018年9月、甲南工場は台風被害で工場の操業が停止しました。このときの経緯、被害経験から甲南工場が学んだ教訓をお伝えします。

台風接近を受け、9月4日の当日と前日は臨時休業しました。台風の翌日5日、大量の雨量が押し寄せ、工場内の各エリアでひどい被害が出ていました。しかし、9月6日には出荷可能な製品を出荷し、生産再開はその翌日となりました。完全復旧はその1週間後でした。長期にわたって生産が停止するような大きな被害ではなかったため、BCPの発動はしていませんが、迅速に初動がなされ、被害のなかった隣の神戸工場で業務を遂行するなど、代替手段の活用に近い動きができていました。

この災害の体験と教訓を踏まえ、備蓄の強化、各施設の再診断と補強、安否確認システムの導入、雨水対策など、被害軽減を目的とした防災対策の強化を図りました。

また、必要な調達品を確保するため、サプライヤーとの連携も協力を推し進めています。サプライヤー各社の調達影響度分析を行ない、リスクを見える化、サプライヤーマップづくりなど、災害時の状況把握の迅速化を図っています。

サプライヤーリスク分析では、自動ドアの生産を中心に、内製化の可否、購入品と外注品の峻別、転注が困難な部品選定など、サプライヤーの資源レベルを評価して、優先度の高い先から順次、調達リスクの対策につなげています。

## 【BCP 重点強化策】

住環境カンパニーの BCP 重点課題は2つです。災害発生時の基本行動において、被害状況を把握し、対応方針の意思決定といった初動プロセスの最速化と、大きな災害が起きて復旧が長期化する場合の代替プロセスの実効性向上です。

甚大または壊滅的な災害発生時からの時間経過において、1時間、6時間、12時間、24時間、48時間以内に取りべき行動を可視化し、手順を細分化して組織で共有することを目的とした初動対応訓練のほか、BCP 発動後の実効性を確保するために、基幹業務である生産組立作業を、代替手段を行使して目標時間内に再開することを目的とした重要業務再開訓練を、初めて今回実施しました。代替生産が容易にできない問題点を洗い出し、理由を明確にして、解決のためのアイデアや工夫を抽出、リストアップして今後の課題にしました。



## 【持続可能な BCP 活動】

BCP はとにかく活動を持続することが大切です。BCP を始めた当初、所定の BCP ガイドラインどおりに実践して BCP 活動が中断、形骸化した反省と教訓を踏まえ、2016 年以降は、計画づくりを重視せず、現場での実践重視に方針を転換、BCP 活動を活性化させて全事業拠点の底上げを図り、レジリエンス認定の取得につなげました。

2021 年からは、現場の特性に応じた最適化を追求し、自立した取り組みを実現するために現場主導型で進めています。BCP 文化の組織形成が真の

ゴールです。ポイントは、レジリエンス認証制度の枠組みの中で訓練と改善をひたすら続けることで、BCPの実効性を向上させることが狙いです。まだ途半ばではありますが、サプライチェーン強化の視点で、現場主導型のBCP構築実現をめざし、支援活動を継続していきます。

### 優秀実践賞：カイシン工業株式会社 様

「令和元年台風19号被災体験で学んだこと、新たなBCPの取り組み」



ご発表者：吉田 孝朗 様／

カイシン工業株式会社 総務部 部長



カイシン工業は創業48周年を迎えました。長野市の北部に工場を集中的に持っており、新潟県、タイ、中国にも現地法人があります。精密板金加工が主体の会社で、機械加工を含め、最近では自動化設備の設計製造も行っています。また、グループ会社と連携して板金製造の後、組み立て・配線、その他機

能試験をして、装置としての一貫した製造体制を構築しています。

### 【BCPへの取組の経緯】

BCPへの取組みは、13年前からスタートしました。顧客からの要請もあってセミナーに参加したのがスタートです。中越地震や北部地震といった非常に大きな地震があり、その後、トップダウンでBCPを進めました。10年前から本格的に動き始め、社内の管理職含め担当者も集めた勉強会での議論に基づいてマニュアルを改版した経緯があります。セミナーで学んだことがここで多くの方に展開できました。シミュレーションを行った結果、当社のBCPの目的の一つは、災害による事業中断時のダメージの最小化。もう一つは、想定外に直面しても冷静に対処する危機対応能力の向上であることを確認しました。台風19号の被災では、特にこの2番目ができたと思っています。

### 【令和元年台風19号による被害状況～直後の対応】

実際、2019年10月12日の台風19号では想定外のことが起きました。深夜に長野市を流れる千曲川の堤防が決壊して越水しました。被災した穂保工場は水深で約2メートル、豊野工場は3.5メートル。同様にグループ会社も被災しましたが、幸い土曜日ということもあり、人命に被害はありませんでした。

#### 3. 被災直後の対応(1/3)

～トップダウンで実行開始～

■ 2019年10月13日(日)水没中

6時 会長はじめ幹部が、工業団地高台に集合。  
安否確認と顧客への状況報告を指示。

15時 被災していない工場において対策会議  
会長より「全力で復旧させる！」と方針が出る。

災害直後にトップダウンで実行を開始しました。被災した13日の朝はまだ水没中で、被災していない工場に対策本部をつくり、当社トップの会長よ

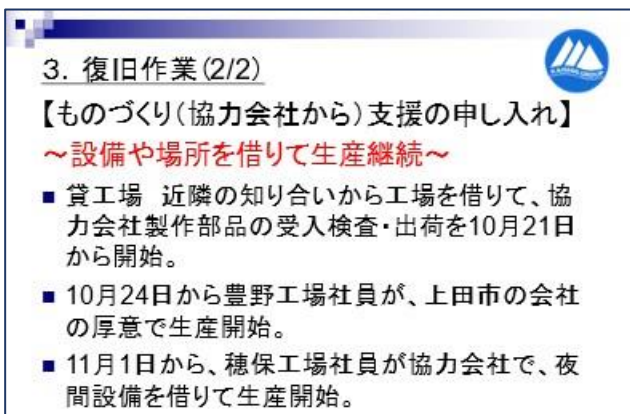


り全力で復旧させるという方針が出ました。この後、顧客への対応、安否確認の状況を報告し合った後、各事業部の部門ごとに打ち合わせを行いました。この打ち合わせがきっかけで、各工場が独自に動き、対策本部では総務がフォローに回る形になりました。



水が引いた後の穂保工場では、泥や稲、リンゴが押し寄せており、処理が大変でした。15日の翌日には、もう少し北にある豊野工場も水が引いて片付けました。

### 【令和元年台風19号による復旧作業】



復旧に入って一番困ったのは、電気がないことでした。実は当社には発電機がなかったため、ともかく協力会社や取引先からも発電機を借りて、発電に注力しました。ただし電気は地域全体で止まっているので、仮設の100ボルトを申請しても時間がかかり、結局11月6日頃に仮設電源で100ボルトが取れるようになりました。設備を動かすにはこれでは足りないので、当社の会長がさまざま

な顧客に依頼し、11月3日にはレンタルで高圧の受電設備を貸してもらいました。その間に、取引先の中で高圧受電設備の部品を作っている会社に協力いただき、年内には新品の高圧受電設備が入って工場の設備がフルに動ける状況となりました。また、水没した1階のパソコンは、顧客にお願いして洗浄し、11月の初めまでには90パーセント程度のパソコンが復旧できました。

### 【生産・出荷を止めない】

ものづくりの関係では、設備や場所を借りて生産をしています。2日目には近隣の工場で空いている場所を借り、10月21日からは協力会社の部品を受け入れ、出荷を開始しています。トラックは、協力会社で空いているトラックを穂保工場長が借り、出荷が始まりました。また、豊野工場の社員は、上田市の会社の設備を借りて生産を開始しています。もともと機械加工の設備を買わないかという話が当社にあったところを、逆に毎日みんなで通うようにしました。また、穂保工場の社員は、協力会社で夜間生産が止まっている間に工場を使わせてもらい、生産を開始しています。その他、社内の新潟工場から設備を移し、いかに製品を切らさないかということに注力しました。



### 【振り返りと対策】

振り返りと対策ですが、良かった点は、事業部制の中でも分科会を作って皆で議論ができ、実際、災害に遭ったときには柔軟に動けたということです。反省点は、水害のリスクを当初、低く見ていたこと

です。現在、千曲川の河川事務所からは水位データが公開されていますので、大雨が降ったときには立ヶ花観測所のデータを監視し、9メートルを超えたらすぐに逃げられるような訓練をしています。また、データのバックアップ体制がしっかり取れていなかった反省点があります。長野と新潟の工場に定期的に毎日データを保存する仕組みを再度構築しています。

## 【改善状況】

### 5. 改善状況

#### (1) 課題管理表の作成

(内容)

- ・「問題」「脆弱性」「リスク」
- ・「課題」「対策」「改善テーマ」「アクション」
- ・区分⇒A:体系・仕組み、B:施設・設備、  
C:手順・ルール、D:その他
- ・優先度⇒①直ちに、②速やかに、③適宜、  
④保留
- ・ステータス(更新時点)⇒完了(年月)、  
実施中/進行中、予定(いつ頃)

改善状況としては、ナブテスコの指導もいただき、課題管理表を作ってあらためて課題を抽出して、ステータスを明確にしました。そんな中、新たな課題も出ています。また今回、レジリエンス認証を取得できました。実態として、作っていたマニュアルは形骸化していたので、いかにPDCAを回すか、もっとシステマチックにしないといけない。これを切らさないためにも認証を取ることにしました。それ以外に、経済産業省が進めている連携継続力強化計画も取得しました。今回被災した中にメーカーから借りている設備もあり、1社ではできない設備の管理、場合によっては金型だけ逃がすといったさまざまなことが考えられます。両方の会社で計画を取得し、連携してやっていくという新たな取り組みを行っています。また工業団地自治会として、BCP委員会を設立しました。自社だけでは解決できない課題を工業団地として取り組もうとスタートしています。

### (6). 工業団地としての取組

#### ・対策

主力工場がある長野市北部工業団地として、BCP委員会を今年度設立した。

工業団地自治会として、自社だけでは解決出来ない課題への取組を共同で取組みながら、工業団地としての連携構築を目的。

- ・資材、設備等の共同所有や維持
- ・団地内用水路などの監視
- ・緊急連絡網
- ・避難訓練
- ・行政対応

31

まとめです。当社のBCPの一番は、従業員を守る。二つ目に、顧客に迷惑をかけない。完全復帰に今回は4.5カ月かかっていますが、2カ月を目標にしていきます。そして納入を止めないことが大事です。

最後に、当社が考えるBCPの一番大事なことは準備です。皆で話し合い、何をすべきか考えたことは良かった。ただし、臨機応変は大事です。現場の状況に合わせて柔軟に対応していく。最後は助けってもらえる関係です。今回、協力会社や取引先からも人や物、さまざまな支援をいただきました。われわれも助けに行けるような、そんないい関係、いい環境を日々作っていくことが大事です。

### 奨励賞：広島修道大学 様

#### 「広島修道大学 BCP 策定」



ご発表者：飯田 良行 様／広島修道大学・ひろしま未来協創センター課長



私は広島未来共創センターの課長をしています。2018年7月にあった西日本豪雨災害では、ボランティア活動に私自身も被災地へ出向き、その経験から事後対応だけではなく、事前対応ということから危機管理に興味を持ち、防災士や危機管理士、事業継続管理者の資格を取得しました。

2021年4月26日に学長から教職員13名で編成されるBCPの検討チームに任命され、危機管理担当の副学長をリーダーとして、約半年かけてBCPの第1版策定を担当しました。本学にも消防計画はあり、火災に関する対応等の計画はありましたが、オールハザードでのBCP策定について本学として初めて取り組みました。

### 【BCP策定に向けての取り組み】

BCP策定に当たっては、2021年4月26日、第1回目の会合で複数の先行事例の大学を参考にして検討を開始しました。その後、3回の会合を経て、ちょうど夏休み期間中に各部局でアクションプランの策定に約2カ月の時間を掛けて、各部局の担当業務の優先順位等の見直しを行いました。それから想定している災害よりもさらに大きな災害があったときにどのような優先順位への組み換えが必要か、課内研修等でメンバーそれぞれが考える機会が約2カ月ありました。最終的には11月12日に最終案をBCP検討チームで策定し、学内の会議体で11月29日に承認を得ることが出来ました。

### 1. BCP策定に向けての取り組み

- ▶ 先行のBCP策定事例を参考に検討開始
  - ① 神戸大学BCP
  - ② 東北大学防災・業務継続計画
  - ③ 早稲田大学BCP 第2版（ほか）
- ▶ 目標時間と実施項目を簡潔に記載するアクションファイルを活用し各部局が策定。

先行事例の大学としては、神戸大学は1995年の阪神淡路大震災の経験をもとに策定されており、想定する災害状況や時間帯、発災時期について、大変参考になりました。東北大学のBCPに関しては、防災の中に業務継続計画を入れていること。また、大学特有の年間スケジュール。つまり入学式から始まって、私立大学であれば2月の入試時期に災害が起こった場合の想定は参考になりました。

復旧目標時間と実施項目を簡潔に記載するアクションファイルが各部局としては一番悩ましい部分でした。何が起こるか、何を優先するかを最初はイメージすることが難しく、大学特有の年間行事の中で災害が起こったときにどういう対処が必要かを学内で共有（想像）するというのにかなり時間を割かれることになりました。

### 【防火・防災訓練の実施】

BCP策定の目的は、大規模地震災害を想定した事業継続計画、それから消防計画における迅速かつ的確な行動のための訓練。また、教職員および学生の防火防災意識の向上を目的としています。

### 広島修道大学BCP策定後、初めての防火・防災訓練を実施した。(2022年9月5日)

- ▶ 目的  
大規模地震災害を想定し、本学の事業継続計画（BCP）及び消防計画における迅速かつ的確な行動がとれるよう訓練するとともに、教職員及び学生の防火・防災意識の向上を目的とする。
- ▶ 内容  
震度6弱の地震発生を想定し、事業継続計画（BCP）及び消防計画に基づいた訓練シナリオに従って、初動対応訓練を行う。訓練後、振り返りをして、そこで得られた内容を事業継続計画（BCP）に反映させる。

今回、学長・副学長をはじめ教職員、学友会の学生、それから協力業者の協力も得て9月5日に60名規模でBCP策定後、初めての訓練を実施しまし



た。震度6弱の地震発生を想定し、事業継続計画および消防計画に基づいた訓練シナリオに従って初動対応訓練を行いました。訓練後には学長はじめ参加者が振り返り会を行い、そこで得られた内容を今後のBCP事業継続計画に反映させるため、参加者全員からアンケートを採っています。

防火防災訓練は、これまでの訓練よりも実際に近い形式で実施しており、緊急対策本部ではヘルメットをつけた学長・副学長、それから役職者等も含めて担当者が集まって、現場からの連絡や情報等をホワイトボードに書き込んでいました。不慣れなために現場には戸惑いと混乱がありましたが、やってみて分かることがかなりあり、訓練を実施できたことは本学にとって貴重な経験となりました。

### 【訓練の振り返り】



訓練では自衛消防隊が班毎で動いていましたが、どこでどう動いているのかが見えにくい状況の中で本部として被害状況を把握して指示をどう出すかも迷ってしまし、現場からの報告が無線のみやりとりなので、何をどう伝えるのかという報告内容や手順の整理も必要なことが分かりました。緊急対策本部を設置しての訓練は今回初めてでしたが、現場から入る報告のホワイトボードへの記録の仕方に関しては、どの班から何時にどう内容の報告かという整理をして、時系列で状況を後で確認する必要があることも、やはり経験したことによって気付いた発見でした。

被災場所の想定については、どこの通路・階段が

使えないのか、どちらに逃げれば良いのかということも学内構成員で共有する必要がありました。



避難経路で通れない想定場所では、代替ルートを確認する必要がありました。また、車いす学生の避難訓練参加もあったのですが、4人一組での車いす補助での避難も想定では難しく、実際に体験したことで多くの意見が出ました。車いすや担架などは大学の財務課が配置しているのですが、どこにどう置いているかを実はよく把握していない場所もありました。災害発生後24時間から72時間は大学として自助努力が求められるので救急車や施設整備・設備の保守業者がすぐには来られないのでどう対応するかを事前に決めておくことも今後の課題です。学生や近隣住民の避難所設営や緊急本部は、次回以降の訓練の課題ですが、救助班のどうやって助ける・救助する・怪我人をどこへ運ぶかは今回の大きな宿題となりました。

震度6想定であれば電気・ガス・水道・通信は全て使えない可能性が高くなります。その場合、緊急用の電源を購入・手配しておくことも課題です。授業期であれば最大6300名の学生がおり、公共交通機関が全て運休した場合、4000名の学生が学内に滞在すると考えると、水や食料などの備蓄品が足りないことは明らかです。

本学は市内中心部からは少し離れており、道路の混乱やアストラムラインという交通機関も安全性の面から止まることが予想されます。帰宅困難者もでるでしょうし、近隣の住民が大学に避難してくる可能性も高いです。避難所の設置も緊急対策本部で判断しますし、優先順位は高いですが、今

回は難しかったところがありました。

### 【広島修道大学事業継続計画（BCP）とは】



大学のBCPでは、授業、試験、学生の単位、卒業、それから新入生という意味での入試は優先順位が高くなります。それらに関してどう対応するかを具体的にするためには、防火防災訓練の中に

そういうシチュエーションを入れながら取り組んでいく。ただ、1年で一度に何もかもはできないので、少しずつBCPに反映させていくこともイメージができました。本学のBCPには発動基準があります。災害想定としては7月の平日12時、昼前に起こった場合。それから、1月の平日、朝5時、つまり教職員が大学に来ていない時間帯にどう参集するかをイメージするときに、参集するメンバーの選考あるいは特定は今後の課題です。中四国の大学でBCPを策定している大学はまだ少ないようですが、今回本学がBCAOアワード2021で表彰された以上、使命としてこの取り組みを止めるわけにはいかないで、今後、継続的な取り組みとBCPのバージョンアップが本学の役割を果たすことだと受け止めております。

## BCAO アワード 2022 募集のお知らせ

まもなく募集を開始します!!

### ◆趣旨

BCAOは日本での事業継続（以下BC）普及を目指し、各種活動を進めています。その一環として、BCの普及に貢献または実践された主体の表彰を行っており、2022年度の募集を行います。標準化・公開、普及等の活動や、調査研究・手法提案、BCPの策定、BCMの実施、人材育成、訓練、点検・改善等の実践及び企業防災の取組みを表彰し、その成果を広く知らしめることを目的とします。また、引き続き「BC推進事例賞（または特別賞）」及び「災害対応特別賞」を設け、BCの推進に顕著に寄与した事例（または人物）及び災害（感染症も含まれます）等への優れた対応事例を、自薦・他薦を問わず募集いたします。

### ◆賞

- ・事業継続部門：大賞、特別賞、優秀実践賞、人づくり・訓練賞、奨励賞
- ・防災部門：企業防災賞、企業防災特別賞
- ・BC推進事例賞（または特別賞）、災害対応特別賞

※大賞は原則1件とし、他は優れたものが多数あれば各賞の受賞者数を限定しません。

※部門の区分を特定しないで応募することもできます。

◆応募資格 個人、企業、団体、（企業・団体の中の）部門など、応募主体に限定はありません。BCAOの会員である必要はありませんが、会員でない場合には会員の推薦が必要です。中小企業の方の応募も大いに歓迎いたします。なお、「BC推進事例賞（または特別賞）」、「災害対応特別賞」は他薦も可能です（表彰は当該主体が受諾いただいた場合に限りです）。

◆応募期間 2022年11月15日（火）～2023年2月15日（水）

BCAOニュースレター 第37号

発行日：2022年11月10日

発行：特定非営利活動法人事業継続推進機構

<https://www.bcao.org/index.html>